

# 名人の時間

## 「社会保育」ってなんだろう

接を受けていました。その面接の中で、こんな質問が出ました。「『社会保育』ということばをどう思いますか」

そのとき私は「保育はもともと社会的な営みなので、そこに社会とつけるのは、屋上屋を架すような感じがする」と答えました。「馬から落馬する」と言うのに似た、意味の重複した言い方のように感じたのです。

そんなことを答えたにもかかわらず、25年の春から、私はその「社会保育学科」の一員になりました。日本中に保育系の大学はたくさんありますが、「社会保育」なんて名乗っているところは、ほかにありません。

私は、長く保育者養成校で仕事をしてきましたが、学生は保育における人間関係を、個別の子どもと保育者という一対

一の関係でとらえがちだと感じています。しかし、実際の保育の場は、そうした一対一の関係をただ集めたものではありません。子どもは子ども集団の中で互いに刺激し合いながら育っていきます。保育者もまた一人で子どもに向き合っているのではなく、同僚とともに、集団として保育をつくっていきます。

何よりも、子育て、保育、教育は、この社会への新参者である子どもたちを、この社会の未来を担う一人前のメンバーへと育てていく営みです。そう考えると、保育は最初から社会と切り離せないものなのだと思います。

「社会保育」ということばへの違和感を、私はまだ払拭できていません。しかし、学科を作った人たちが、保育にあえて「社会」ということばをつけたのは、保育のそうした側面をしっかりと見ていこう

という意思の表れなのかもしれない、と今は思っています。「社会保育とは何か」という問いに、明快に答えられる人は、たぶん多くありません。ただ、学科ができて10年が過ぎ、



社会も、学生も、大学の教員も少しずつ変わっていきます。その変化に向き合いながらも、変わっては

いけない大事な部分を確かめ、言葉にしていきたいという願いが、「社会保育」という名前に込められているのでしょうか。社会保育学科学科

長

滝澤真毅

2024年のある日、私は名寄市立大学の二室で、採用面